

## 性能のバランス

- ◎ 近頃の老人医学も進んで来たものです。以前は、例えば心臓が悪いと、他の部分の衰えとは無関係に心臓だけを丈夫にしてしまって、苦しんで死んで行く結果となったそうです。今は、身体のだどの部分も平均に適当に老化して行くように治療するのが理想とするそうです。
- ◎ 電設資材も同じことで、耐蝕性を必要とするものの本体を溶融亜鉛めっきしても、ボルトが普通のめっきでは無意味であり、もし溶融亜鉛めっきで精度が出せないときは、ステンレスボルトを使用する配慮が必要です。
- ◎  $W^3/8$ の吊ボルトの許容静荷重は440Kg位ありますが、HB-1で吊るときは、通常2個のナットで挟むので、その部分の強度が減って来ます。例えばトルク200Kg-cmで締付けると許容静荷重は $1/2$ 位になってしまいます。(MiNi通信S.49.7.20号参照) 一方HB-1の許容静荷重は基本使用例で200Kgですから、吊ボルトの強度220Kgとバランスするわけです。
- ◎ ネグロスでは、可能な限り製品性能のバランスを考えて設計をすすめています。が、まだまだ見落としがあると思います。どしどし御指摘下さい。

(営業・明神)